

2012 年度 中央大学特定課題研究費 一研究報告書一

所属	総合政策学部	身分	教授
氏名	服部 龍二		
NAME	Ryuji Hattori		

1. 研究課題

（和文）日本外交とアジア太平洋秩序

（英文）Japanese Diplomacy and the Asia-Pacific

2. 研究期間

2年間

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600 字程度、英文 50word 程度）

（和文）

アジア太平洋地域は世界的にみても成長の中心軸となっている。と同時に、歴史認識や開発などをめぐって、摩擦の可能性が錯綜していることも事実であろう。

そこで本研究では、アジア太平洋における日本外交の役割と秩序形成について、実証的に研究を進めた。インタビューでは、かつての日中貿易関係者、駐オーストリア大使、駐米大使、国連大使、駐中大使、首相秘書官らに聴きとりを行った。

その成果の一部は、高原明生・服部龍二編『日中関係史 1972-2012 I 政治』（東京大学出版会、2012年）、折田正樹／服部龍二・白鳥潤一郎編『外交証言録 湾岸戦争・普天間問題・イラク戦争』（岩波書店、2013年）、長谷川和年／瀬川高央・服部龍二・若月秀和・加藤博章編『首相秘書官が語る中曽根外交の舞台裏——米・中・韓との相互信頼はいかに構築されたか』（朝日新聞出版、2014年）などとして公表した。

APECの原点ともされる環太平洋連帯構想に関しては、大平正芳の足跡をたどった。これについては、拙著『大平正芳（仮）』として、岩波書店からの刊行に向けて作業を進めている。刊行は2014年5月となる予定である。

史料については、情報公開法による開示請求を行った。その一部は、「中曽根・全斗煥会談記録」として、2014年度末の『中央大学論集』第36号に掲載予定である。

（英文）

The Asia-Pacific region is the center of growth. Simultaneously, it is also a fact that the region can cause friction. In this research, the role of Japanese diplomacy and the order formation in Asia-Pacific were studied empirically.

Records on the talks between Ohira Masayoshi, Chiang kai-shek, and Shen Chang-huan in July, 1964 were published on the Journal of the Diplomatic Archives, no.27, December 2013.

